

お寺葬説明会

お葬式を考えましょう

お寺葬とは

お寺の本堂を会場に、教化面を充実して、葬儀費用をおさえつつ、お葬式を執行する取り組み。

お寺にある既存の設備や備品、本堂や祭壇（野卓等）、を利用するので、安価にお葬式ができます。

各社の直葬プランや大阪市規格葬儀などを利用し、そこで直接火葬場へ向かうのではなく、お寺の方で通夜葬儀式を執行します。

日程にも余裕ができ、準備や葬儀を通してご遺族と接する時間も多く、深いコミュニケーションができるため、教化機会に優れて多くあることが最大のメリットです。

未来の住職塾セミナーなどで考えたこと

○「寺は選ばれる時代になってきた」松本紹圭塾長

○葬儀の際、手次寺が不明な時、お寺を選ぶ判断材料について

- 1：元々の宗旨、元々の所属
- 2：葬儀社のすすめ
- 3：HPや伽藍
- 4：知り合い親族のすすめ（関係性）

未来の住職塾セミナーなどで考えたこと

選ばれる時代の中で、「**教えの内容**」が判断材料にない悲しき事実。

逆に考えれば**チャンス**。

「教え」を知ればそれが重要な判断材料、つまりその者の宗教となるだろう。これが肝要とおもった。

恩樂寺の門徒の傾向について考察した

総合的に見て

A

足繁くお寺に参って聞法してくださる門徒

B

毎月参るがお寺には参らない門徒

C

祥月あるいは年忌のみ付き合いの門徒

D

- ・ 郵送するだけの門徒
- ・ 自分を門徒と思っていない門徒

恩楽寺の門徒の傾向について考察した

家単位で見て

A

参勤時、主に一緒にお勤めしてくれる人

B

Aと同居しているが一緒に勤行してくれない人

C

Aと同居しておらず、たまにしかお内仏に参らない人

D

親戚など。または近親でありながら不敬だったり他宗教の人

恩樂寺の門徒の傾向について考察した

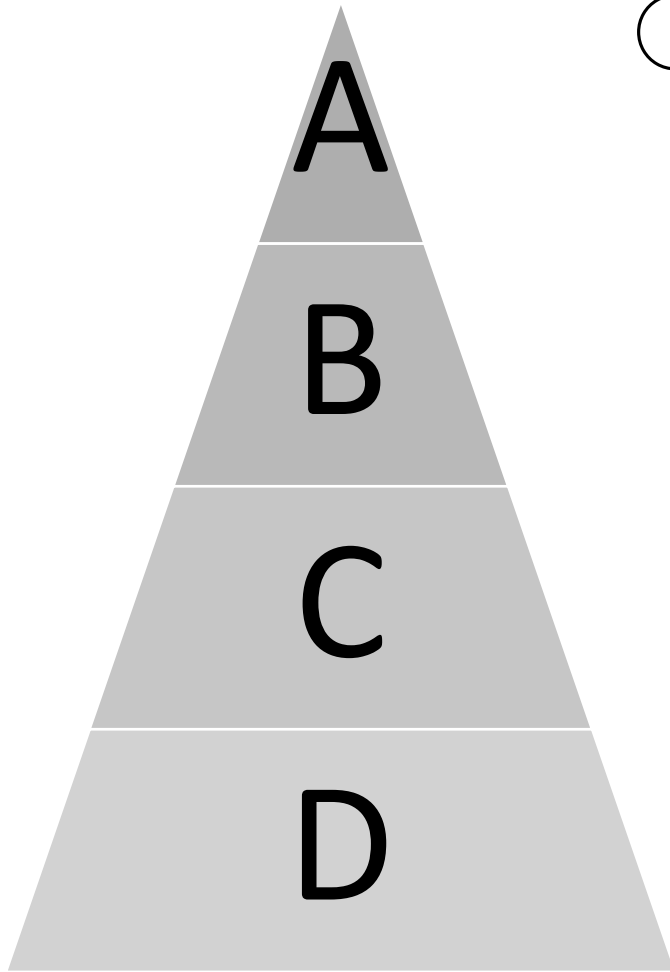
○自分と自分のお寺を考察した

Aタイプのご門徒との関係性や法話には自信ある

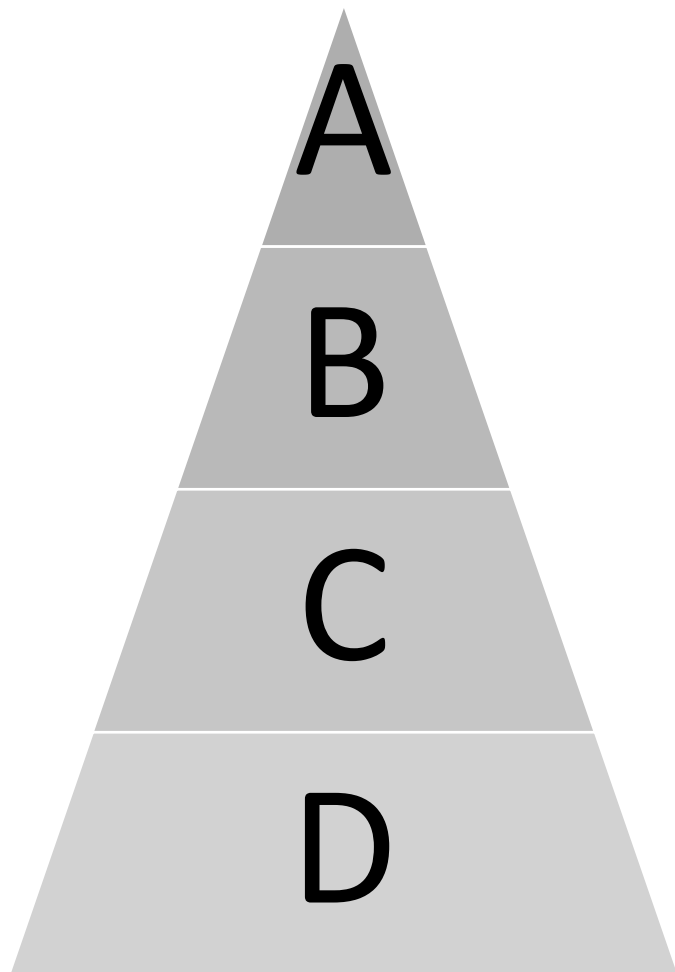
しかし、B→C→Dの順に、
アプローチが低くなくなっていく

Aも含めてB C Dいずれのタイプの人、
最初から仏法に興味があったわけではなく、
「葬儀のご縁」「義理」「先代からのご縁」などで、
当寺の門徒になっている人が多い。

そしてこれまでのやり方で、「**私は門徒である父の息子
だから自分も門徒**」と自動的に考えてくれるだろうか。



恩樂寺の門徒の傾向について考察した



最初から「親鸞聖人の教えに感動して、浄土真宗を選んでうちの寺へ来た」という人は確認できていない。

これまでのやり方では、何かの場面で「教えに感動してうちのお寺を選ぶ」可能性は低いだろう。

掲示伝導やポスターやチラシ、
HPなんか今も頑張っているが効果が弱い。

マイノリティを自覚し、大多数への効果的なアプローチの「場」を考えてみた

BCDの方々に、ダイレクトに、
一方的に話を聞いてもらえる場は「法話」しかない

聖人のみ教えをお伝えして、篤いご門徒になっていただけるよう、
法事での法話、通夜での法話を大切に行おうと思った

法事・法話こそがアプローチの最大のチャンス！

マイノリティを自覚し、大多数への効果的なアプローチの「場」を考えてみた

○未来の住職塾・本科生たちの結論

（寺業計画発表・卒論のようなもの）

「新たな取り組みを始めるよりも、もともとあるモノをさらに丁寧になおす」という傾向が多かったそう。

マイノリティを自覚し、大多数への効果的なアプローチの「場」を考えてみた

○未来の住職塾・本科生たちの結論（寺業計画発表・卒論のようなもの）

宿坊開設、フリーマーケット、カフェ、お祭りのイベント、教室系といったような新たな取り組みの展開を計画する案は自分も考えた。恩楽寺の場合、そういった取り組みはリターンが少ないうえ、寺族が疲れて終わるだけでは？　と思った。

うちのお寺は、法要と法話に参詣してもらって成立している。それら副業的な寺業展開で法要参詣が大幅に増えるとは思えない。

マイノリティを自覚し、大多数への効果的なアプローチの「場」を考えてみた

○未来の住職塾・本科生たちの結論（寺業計画発表・卒論のようなもの）

対して、お墓、納骨堂、永代供養墓、合祀墓などを

さらに工夫して、憩いの場を作ったり、パンフを刷新したり、

合祀墓コミュニティを作ったりなど、**もともとある寺業を新たに**

取り組みなおす意見の方が経済的で実現性が高いと思った。

マイノリティを自覚し、大多数への効果的なアプローチの「場」を考えてみた

○未来の住職塾・本科生たちの結論（寺業計画発表・卒論のようなもの）

私も同様に、

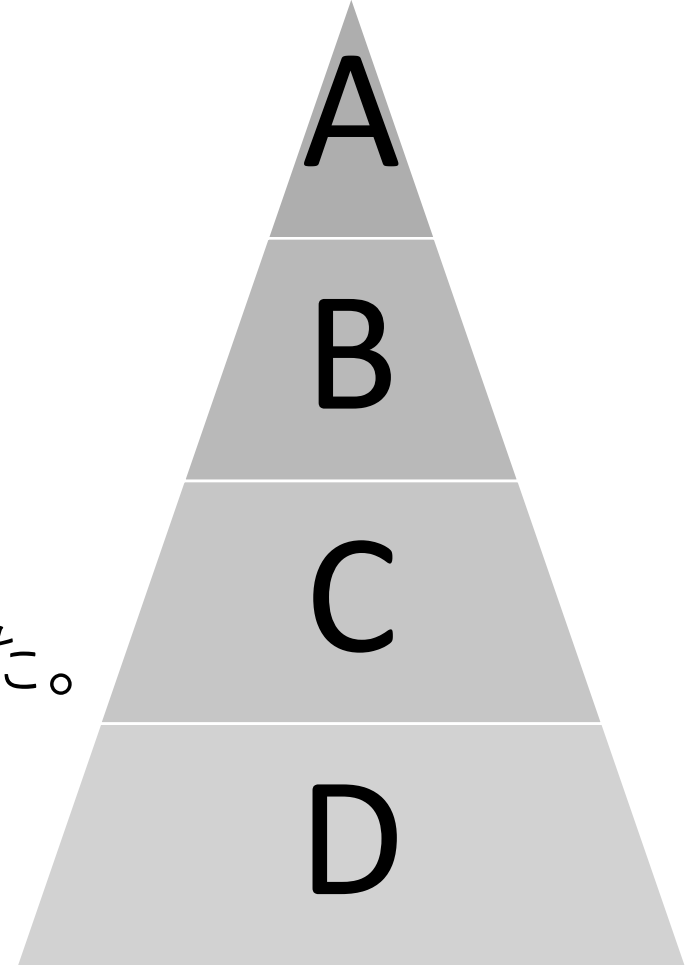
「まずは新規開拓努力に取り組むよりも、

すでに有縁の者たちに働きかけることに取り組もう」 と思った。

どのような法事・法話が効果的か考えた

B C Dのような、
所属しているが寺に参らないような人々、
法事や通夜でやっと会える大多数の人々。
これらの人々に、寺への所属意識を自発的に
自覚してもらうためには、何が一番効果的か考えた。
すると、やはりHPや寺報は重要だが二の次で、
もっとも効果を感じるのが、

月参りでの傾聴と、それを経た法事や通夜での法話だった。



どのような法事・法話が効果的か考えた

○傾聴から生まれる法話

それはある意味機に応じた法話ではないかと考えている。

月参りはほぼ傾聴に徹し、その人やその家の苦悩や思いを聞き、苦悩の自覚や仏法への関心が深まるよう、傾聴して効果的な繰り返しや要約を行う。そして機を見て法をお伝えする。

その機の場合が法事や通夜になるのが理想的で、

法事ではお勤め 30 分、法話 30 分するようになった。

アプリを利用して、家単位のカルテを作った

○傾聴を生かすために

クラウドでタブレットとP Cで共有できるカレンダー日記系のアプリなどを活用し、前回参勤時はどのような会話をしたかなど参考にして、さらに深い話を聞き出すために共感的な質問をする。

展開されるお話はようこそ仏法への宝庫だった。

質問や意見を求められるまでガマンし、 傾聴するよう始めた

仏法押し売りしたい私であるが、傾聴より生まれる機に応じた法話がもっとも効果高く感じるので、沈黙は最大**45秒**ガマンすると勝手に決めている。相手が考えて深めて発言してくれるのを信じて待つ。

そこから来る質問は、だいたい本当に聞きたいことや、言いたいこと、前から興味があることが多い。アテが外れて脱線した全然関係ない発言・質問されてしまったら、さらっと受け流して考えて欲しいことについて質問してもいいし、その脱線を受け入れてもいい。

本堂で法事をする件数を増やしたこと

傾聴から生まれる法話を大切にしよう、と努力し始めると、
本堂での法事がとても有効だった。

理由：ホストとゲストの逆転が、
聞く姿勢に大きく作用しているのか、
本堂で法話した方がよく聞いてもらいやすい。
さすが聞法道場。

本堂で法事をする件数を増やしたこと

家単位で見て

A

参勤時、主に一緒にお勤めしてくれる人

B

Aと同居しているが一緒に勤行してくれない人

C

Aと同居しておらず、たまにしかお内仏に参らない人

D

親戚など。または近親でありながら不敬だったり他宗教の人

本堂で法事をする件数を増やしたこと

○率先して本堂を使用してもらうようお願いとご案内を始めた。

特にAタイプのご門徒に

「**B C Dとのご縁を結びたい**」と正直にお願いした。

Aタイプの門徒を軸に、B C Dを巻き込んで仏事を勤めるコミュニティ感覚を育んでもらった。

仏壇・仏事は負の遺産、というイメージを破壊し、尊いバトンと受け取ってもらえるよう法話で伝えるようにした。

→やはり法話に30分くらいは必要だった

本堂で法事をする件数を増やしたこと

○法事での本堂使用料を下げ、使い勝手が良いように工夫した。

- ・ 本堂に冷暖房設備
- ・ 控え室に幼児用DVDや若坊守によるレクレーション。

本堂で法事をする件数を増やしたこと

事前に5～10分の「式次第の説明と軽い法話」していることについて

「念仏」「供養」って、本当はこういうことだったんですね、などと簡単にひっくり返しておき、儀式中に考えてもらい、法話への期待心境を作る。

儀式中に、法事の当事者として、意識したり考えたりしてもらう。

儀式への参加意識の向上を狙う。

本堂で法事をする件数を増やしたこと

○本堂に参ることで、所属意識、当事者意識が深まることを知った。

例：過去帳をお供えした中学生男子から、
「うちのお寺って云々」という発言が聞けた件。

例：「法要お参りできなくてすみません」
という発言を聞けた件。

葬儀会館などでの通夜説法も同じようにしようとする、とてもやりにくいこと

○事前法話がN Gだされたりする。

「音響やイベント、次第上の都合で～」 「喪主の意向で～」

○法話が長くなるとN Gだされた。

「お疲れですので～」

儀式直前に「時間がどれくらいかかる、最初に法話します」

などなど打合せしても、司会者だけが把握してて、従事して

いる他の職員が分かっていないことは多い。

葬儀会館などでの通夜説法も同じようにしようとする、とてもやりにくいこと

○やりにくい最大の理由

控え室に通されるので、遺族と隔たりがある。

喪主が挨拶に来てくれていろいろお話していても、司会者やイベントの都合で介入してくることがある。

仕方ないので一時間前から行くようにした。

たくさんおしゃべりできるようになったが、

それでも他の遺族の様子が分からない。

葬儀会館などでの通夜説法も同じようにしようとする、とてもやりにくいこと

◎同じ題材の法話でも、本堂でかけた方が響くのになあ

やがて、仏法を押し売ることに貪欲で傲慢な私には、従来の葬儀社主導の儀式では「南無阿弥陀仏のお葬式」に物足りないようになった。

本堂の法事のように、自分でプロデュースした方が遺族とも距離が近くなるし、ご法話も聞いてもらいやすい。

そして、「お寺で法事をして法話を聞いて大事なことに気がついた」ということが深い思い出・強い印象になることを思い出した。

お寺葬を始めるまで試行錯誤したこと

○手当たり次第、いろいろな勉強会に行ってみた

茨城県仏教会・研修会

長老主義はやめよう 400年ぶり布教の時代

お寺の未来はどうなる？



寺院消滅の現場を語る鶴飼秀徳氏と葬式仏教の価値を説く薄井氏



鶴飼氏は国学院大学の1に、人口減少と過疎化の石井研士教授の分析を基

若手の発想や意見に期待

茨城県仏教会(松本一浩会長)は5日、本市市内の本で研修会を開催した。『寺院消滅』を上梓し、過疎地寺院の現状を続ける日経BP記者で浄土宗の僧侶も持つ鶴飼秀徳氏と、葬式仏教の価値向上に取り組んでいる寺院デザイン代表のコンサルター薄井秀夫氏が講演。異なる角度から未来の寺院のありかたを示した。約50人が参加した。

千ある宗法人が2040年には6万3千385人に減少し、1万4千にまで危険性があつた。薄井氏は、実際に過疎地寺院の現状をレポート。島根県見方地方の地にもカナジにも載らない上、住職は遠隔地に住んでいるが、「年に一回、自戒律の集団が佳しう異様な状況になった。浄土宗寺院、長崎県五島列島にある「先代長老」が逃げ出し、在出の若い住職を檀家が迎えた。日蓮宗寺院の様子を、参加者は他人事とは思えない表情で聞き入った。

東日本大震災で大きな被害を受けた若手職師前高田市のある寺院では、檀家の状況を配慮し葬儀の布施を一律5千円にしたという。震災から4年経って、布施はそのまま5千円で定着していった。一度下げたお布施の金額を上げることは難しい。檀家も寺も苦しい中での両方うまくいかない事実も語った。送葬サービスや都市開教などで、こうした状況を打開しようとする住職

の取り組も紹介。また北方領土の墓地をルポしたところ、先祖を思ふ心う結集したという。薄井氏も、お寺離れが取りざたされる中で、その基本をどうするかの生命線とも提示した。

鶴飼氏は仏教界の秘伝を導かれた鶴飼氏は「長老主義をやめることが必要」とし、執行部が70歳代を超えている間、行政や、青年会と称しながら中年層が活動の中

心にある現状に苦言。二般企業と平均年齢60代くらいでなければ、薄井氏も「お寺離れ」が取りざたされる中で、その基本をどうするかの生命線とも提示した。

薄井氏は未曽有の多死社会の中でも、それらのお寺で葬儀が増える理由を、地方から都市部に出て、菩提寺を持たない人が大半だからと分析。地へ出た檀家のために出法要や、檀数の

寺院が丹し合せて「○県出身○宗檀越の大法要」を行う。縁を子現、永代供養や終活講座などの新たな取り組みをする意識の高い僧侶が増え、葬式仏教の価値に気づくことが期待された。

自死遺族支援
ボランティア募集



発行所
仏教タイムス社
東京都新宿区市谷田町2-7
東ビル6F 平162-0843
電話代表 (03) 3269-6701 番
FAX (03) 3269-6700 番
京都市下京区新町通五条下ル
姫子町106 ベルヴィ5条303
〒600-8302
電話 (075) 351-0699 番
FAX (075) 351-0647 番
6ヶ月 720円、1年 1,440円
振替00170-6-33097 番
http://www.bukkyo-times.co.jp
©仏教タイムス社 2016

『寺院消滅』 鶴飼秀徳氏と
(株)寺院デザインの薄井秀夫氏の
対談の様子

2016年仏教タイムス

お寺葬を始めるまで試行錯誤したこと



○葬式仏教価値向上委員会

(株)寺院デザイン 代表取締役 薄井秀夫さん

「400年ぶりの「布教の時代」がきている。永代供養墓や終活講座などの新たな取り組みをする意識の高い僧侶が増えている」2016年仏教タイムス

「「葬式仏教の価値に気付くこと」が必須だ」2016年仏教タイムス

「現在の葬儀にたりないのは「説明と参加」である」2017年毎日新聞

「お葬式の大切さを感じてもらえるよう、僧侶が一生懸命取り組んでいくことが、日本人の宗教観を取り戻すことになる」

→お葬式を、深く意義あるものに新しく取り組みなおすべき

お寺葬を始めるまで試行錯誤したこと

○葬儀社の主催する葬儀生前予約会と説明会に参加してみた

業界のことを突っ込んで聞けてとても勉強になった。分かったことは...

- ・その葬儀社は契約、提携している僧侶に自信を持っていた。
- ・「当社に会員登録されているお寺様はみな立派なお寺さんなので、まったく問題ない」という発言が聞けた。
- ・その時の担当者は
「安心してお葬式ができるよう、亡き人に心に向けられるように余計な心配事をなくしてあげたい」と繰り返した。
よって
「当方の会員になっておられるお寺さんをお呼びしますか？」
とかならず聞くそうだ。

お寺葬を始めるまで試行錯誤したこと

○葬儀社の主催する葬儀生前予約会と説明会に参加してみた

- ・運営の多角化が進んでいることが分かった

亡き人の写真動画を鑑賞

献灯、献花の儀

初盆セット

法事もできる

→遺族が安心して亡き人にこころを向け、少しでも癒やされる

よう、細やかなサービスが行き届いているが、

「亡き人を通して教えに遇う」 ことについては積極的ではない。

ベルセルクの後押し

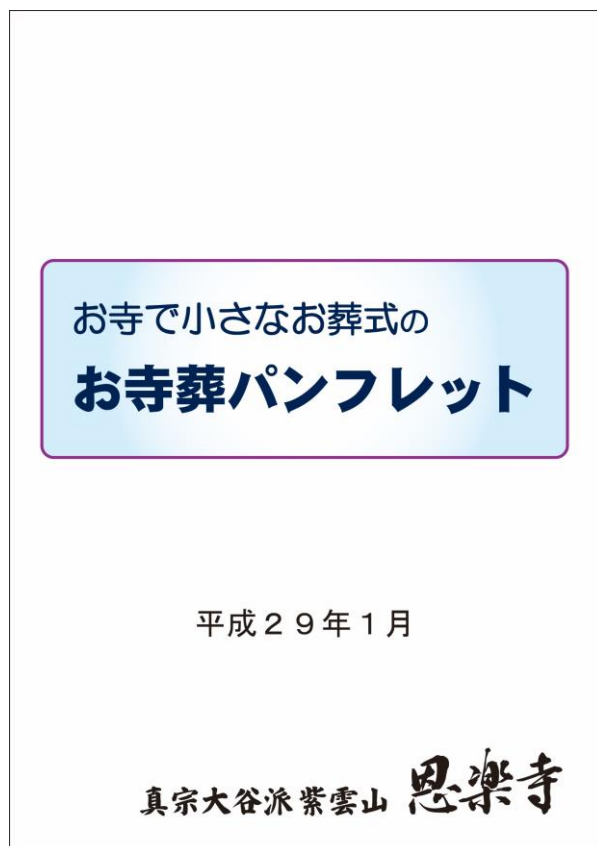
懸念材料の心配、知識と
対応準備を調べてから
始めようと二の足踏んでい
ると.....



「達人になってから戦場にでるのか？ 気の長い話だな」
ということで、平成26年1月にとりあえず始めてみました。
「お寺でも負担少なく安心してお葬式ができます」
「**もしもの時は第一報を必ずお寺にご連絡ください。**
何時でもかまいません」と寺報にのせて始めてみた。

ベルセルクの後押し

お寺葬のパンフレットも、最初は稚拙だったが
随時バージョンアップしていこうと思った。



ファーストコールが一番大事

○先に葬儀社が対応してしまうと、まずお寺葬できない。

日程や式の内容など、打ち合わせで決まってから連絡が来てしまう。

すでに内容が決まっているので、お寺の方からは意見しにくい。

→寺報、説明会、HPなどで

「もしもの時は必ず一番最初に連絡をください」

と繰り返し広報することが大切

ファーストコールが一番大事

○先に葬儀社が対応してしまうと、まずお寺葬できない。

☆お寺を会場にして、
お寺が葬儀社を手配することで、
葬儀の主導権を得る

ファーストコールが一番大事

○電話がかかってきたら.....（恩楽寺の場合）

①お寺から葬儀社に連絡し、寝台車を派遣。

到着までの間に座敷、本堂の準備

ご遺体安置して枕勤め、法話

喪主、寺院、葬儀社三者で打ち合わせ

以下の手順などはパンフレット参照

お寺葬説明会とミニ法話会

○説明会を毎年行っていることについて

平成27年一月に門徒向けの「お寺葬説明会」を開いた。

これにはそれまでお寺に参ったことのないような方も参加されたので、これは良い傾向だと思い、継続してお寺葬説明会を毎年することにした。

説明会がご縁で親密になった門徒も少なくない。よって単なる説明会ではなく、法話もすること。

終活のつもりで来る人が多いので、しっかりお話きいてもらえた。

注目されはじめたお寺葬

平成28年 6 月に 2 組青年会、 8 月に20組仏教講座にてお寺葬の説明会行った。

他にも、南御堂新聞、中外日報などにも取り上げてもらった。

地域・読者



「共に学ぶ」大切さを僧侶仲間に伝える乙部さん(7月7日、恩楽寺で)

が、寺の行事にあまり参加しない門徒に働きかけることで恩楽寺への所属意識を高めてもらうと同時に、門徒以外の会葬者にも寺の存在を浸透させる狙いもある。

「お寺葬」では臨終時に「必ず一番最初に恩楽寺に連絡」してもらったことから遺体搬送や湯灌、納棺、火葬など全てのプロセスに関わる。葬儀前に営む本堂での通夜法要後は寺の座敷にお斎会場を設置し、食事を共にしたり、布団を用意したりすることもある。

既存の施設や寺が常備する祭壇を使用し、寺族も様々な手伝いをするため、遺族にとっては葬儀費用が比較的安価になるのがメリットだが、乙部

さんは「葬儀社の協力も不可欠。きちんとお付けが出るよう配慮して良好な関係を築く必要もある」と言う。

また「例えば、遺影の準備を喪主以外の親族に任せるなど何かの役割を与えることも大切。喪主の負担軽減だけでなく、葬儀に対する当事者意識を持つてもらえる」と説明。「すると儀式や法話への共感が高まり、仏教やお寺に関心を持ってもらえる。『お寺葬』の後、報恩講など寺の行事にお参りに来てくれる人が増えた」と喜ぶ。

これまでに2度、門徒対象の「お寺葬」の説明会を開いたが、7月7日に初めて地元の大田区教区の僧侶を対象にした説明会を開催し、十数人の参加者に惜しげもなくノウハウを公開した。

乙部さんは「最初は他の寺院に内緒にして自坊だけでやる方が得だと思っていた。しかし『閉塞しつつある寺院の運営状況は仏教界全体の問題。自坊だけで盛り上げるのではなく、ご門徒や他寺院、宗門全体が元気になるないと共倒れになる。共に学ぶ仲間が最も大切だ』と力を込めた。

(池田圭)

大阪市東住吉区・真宗大谷派恩楽寺衆徒の乙部大信さん(36)は、3年前から自坊を会場に葬儀を営む「お寺葬」を始めた。「葬儀社の会館で行う葬儀と比べて遺族との距離が近くなり、法話も聞いてもらいやすい」と手応えを感じている。

「聞法」を重視する浄土真宗ではあらゆる仏事で法話をするが、従来の葬儀社主導の葬儀では思い通りに法話ができないことが少なくない。法話のさなかに葬儀社の社員から「ご遺族がお疲れですの……」と制止されることもある。

「仏法を押し売ることには食欲で傲慢な私」と笑う乙部さん。「従来の葬

お寺葬ノウハウ公開

キラリ
頑張る 宗教者

大阪市東住吉区
真宗大谷派恩楽寺

乙部 大信衆徒

宗門に活気仲間と共に

注目されはじめたお寺葬

平成28年 6 月に 2 組青年会、 8 月に20組仏教講座にてお寺葬の説明会行った。

他にも、南御堂新聞、中外日報などにも取り上げてもらった。

フェイスブックやＨＰ経由で全国のお寺さんから資料請求も多数。

中にはお寺でお葬式を専門にする葬儀社を設立したお寺さんも...

お寺葬が安価な理由

法要において、何らかのお役を担っていると参加意識が高くなることを知っていた。

「自分たちでお寺で法要の準備をする」 感覚を味わってほしい→後述

結果、副次的に安価になった。

それに、

×お寺でお葬式をしたら、有難かったけど、高かった。

○お寺でお葬式をしたら、有難いうえ、まあまあ安かった。

安価な方が広報しやすいし、考えてもらいやすい。

お寺葬が安価な理由

○葬儀費用が安価になるポイント

① 会場をお寺にすることで、会場費削減



座敷（お斎会場）



- ・ 親族控え室、食事場所に利用できます
- ・ お斎は約25名まで着席できます
- ・ 本堂も食事会場として利用できます
- ・ 机、椅子をご用意できます
- ・ テレビをご用意できます
- ・ 冷蔵庫も飲み物を冷やすなど利用できます

お寺葬が安価な理由

○葬儀費用が安価になるポイント

② 祭壇（野卓など）をお寺で用意することで、祭壇費用削減



お寺葬が安価な理由

○葬儀費用が安価になるポイント

③ 寺族らがお手伝いすることで、
人件費削減

この他にも工夫すれば
様々な費用削減できる

ただし！



葬儀社・葬儀会館の代替え品に陥ってはならない！

ただ単に、葬儀会館の代わりをコスパに優れて執行するだけでは、お寺葬の意味がない。

「南無阿弥陀仏のお葬式」を執行することが最大の目的である。

葬儀を通して、

「自分は真宗門徒だ」

「このお寺さんに習って、私が亡き人を弔っていくのだ」
という当事者意識を開発する場にならないといけない。

そのためには**機に応じた法話**がもっとも有効である。

全てのプロセスに関わり、付き添うことで広がるご縁

第一報をもらってから、ご遺体の搬入、枕経、葬儀社打合せ、湯灌、納棺、通夜、葬儀、出棺まで、
全てのプロセスに付き添うことができる。

遺族と関わる機会・時間が大幅に増え、
とても有意義にじっくりお話が聞ける。

また、住職が付き添えなくても問題にならない。
「お寺でお葬式をした」経験が肝心。

葬儀社に任せっきりで、深い思い出にならない

目の前に亡き人と本堂（本尊）があることが、心に大きく作用するようだ。

思いを聞ける傾聴の場がたくさんある。

亡き人の思い出、死後世界、自分の苦悩状況などなど、思いを仏法寄りに話が聞ける。

顔なじみさんでも普段とは違う非日常的な空気が漂う。

遺族の中で動ける人に指示をする

「自分たちでお寺で法要の準備をする」 感覚を味わってほしい

コンカペイは最初是用意していたが、作成に時間が必要なので、遺族と寄り添う時間を大切にするため、省略することにした。

そこで、当事者意識を開発することを狙い、喪主の子どもや若く動ける人に、コンカペイのかわりになるお供え物を用意してもらい、それを自らお飾りしてもらうことにした。

遺族の中で動ける人に指示をする

「自分たちでお寺で法要の準備をする」 感覚を味わってほしい

遺影写真の引き伸ばしなども、喪主自身ではなく、喪主以外の動ける人に担当させ、儀式への参画と当事者意識の向上を狙う。

例「カメラのキタムラで八つ切り引き伸ばし 1 3 0 0 円、

葬儀社さんをお願いすると 3 万位する。自分達で用意すれば安くなるし仏さんもよろこばれますよと云々」

遺族の中で動ける人に指示をする

「自分たちでお寺で法要の準備をする」 感覚を味わってほしい

他にも、

「通夜振る舞い担当」「火葬後の食事担当」「車手配担当」などなど、

「葬儀社に頼んだり仲介すると高くなっちゃうので、お願いできる時間がありますか？」という入り口で、「しっかりお葬儀のお役を担って、お見送りしましょう」と呼びかける。

嫌がった人は今の所いない。参加意識が高くなることが狙い。

すると

遺族の中で動ける人に指示をする

「自分たちでお寺で法要の準備をする」 感覚を味わってほしい

「じゃあ自分でマイクロバスをレンタカーします、とても安いので」とか

「とっても美味しいお店があって、無理言ってそこにケータリングした、
またお寺葬や法事などあれば使ってやってください」 など

自発的に行動したり相談してくれたりする人もいた。

→儀式をお寺さんと一緒に作っていく、

という感覚はお寺とその人の強い絆になるようだ。

お寺葬後の案内も大切

○お寺へ継続して参ってもらうよう案内する

お寺葬に続いて、お寺で満中陰、お寺で一周忌、年忌法事と繋いでいくと、お寺へ参ることへの抵抗が低くなって気軽に法要へ来てくれるようになる。

「もっとアツイ話をお寺の法要などで行っています、ぜひ参って下さい、お願いします」

「もっと深い話を用意してます、ぜひお伝えしたいんです、
お寺を支えると思って、参ってください、よろしくお願いします」

**→最初から聞く気、支える気に来てくれる参詣人が増えた。
まさしく亡き人をご縁として。**

お寺葬ではそのお寺独自の取り組みを 反映できる

普段から取り組んでいる内容を充当できる。

法話に重点を置くもよし、傾聴に重点を置くもよし、
コミュニケーションに重点を置くもよし、坊守がメインになるのもよし。

もともとあるお寺のコミュニティ（コーラス会、座談会、地域コミュなど
いろいろ）にその会ごとに説明会をするのもよし、お手伝いをお願いしたり
するのもよし。

また、枕経や夜とぎ、仮通夜などの場で、勤行・法話の場を
増やしたり、日程や座数を増減でき、葬儀社主導ではやりにくい
従来にない法要を執行できる。

葬儀社とのカンケイ

決して敵対関係になってはいけない。

お寺側から葬儀社に手伝ってもらっているという姿勢が大切。

お寺葬を手伝ってもらって、
「嫌がる葬儀社」「熱心に協力する葬儀社」
「専属を願ってくる葬儀社」
「逆に方法を提案してくれる葬儀社」などなど、
葬儀業者によって反応は様々だった。

パンフレットを配ったり、 説明会をしようと思った理由

お寺を元気にしようという目的で始めたのがお寺葬。
始めた当初は他のお寺さんにはナイショにして、
自坊だけでやっていこう考えていた。

しかし、中外日報を読んだり、教区の活動や講座へ足を運んでいるうちに、
お寺が元気を失っていく現状は、宗教界全体の問題と捉えるようになった。

自坊だけで盛り上がることは不可能で、ご門徒とお寺・宗門・仏教全体が
元気にならないと共倒れになると考えるようになった。

自分ひとりだけで教学を深め、儀式に習熟していくことは不可能だ。
共に学ぶ仲間がもっとも大事だと思う。

何かの足しになればと思い、資料提供するようになった。

お寺葬がすぐできるお寺とやりにくいお寺

○地元の葬儀社が強い場合、歩みを合わせる必要がある

地域で「お葬式の際は〇〇社に連絡する」というような意識が浸透していたりすると、歩みを合わせる必要がある。

恩楽寺の地域の場合、かつて強かった葬儀社が廃業寸前だった。

そのため様々な葬儀社が入り乱れしのぎを削っていたため、容易にできた。

お寺葬がすぐできるお寺とやりにくいお寺

○地域性の問題

地域の会館などを利用する習慣が根付いていたりすると難しい。

恩楽寺の場合は、地域的な習慣がすでに失われかけていた。

お寺葬がすぐできるお寺とやりにくいお寺

○お寺の構造上の問題と人力的問題

設備がある程度ないと難しい。

恩楽寺の場合は、野卓など仏具、駐車場、座敷、トイレ、炊事場、冷蔵庫等すでに最初から整っていた

これまでの説明を全部をマネしていただきたいわけではありません。何かの足しにしてください。

お寺葬のデメリット

葬儀業界の知識がある程度必要になる

拘束時間が長い・体力がいる

法務収入が減る場合がある

坊守若坊守等に業務負担、手当が発生する

葬儀社との関係に一步踏み込む勇気がいる

不測の事態が起こった時の対応力が弱い

☆他にどのようなデメリットがあるのか、未だ未知数

お寺葬のメリット

葬儀日程を当寺都合を優先して決められる

葬儀執行の**イニシアチブ**が得られる

寄り添う傾聴ケアを実施し、仏法に転入する機が余るほどある

参加者にとって深い思い出になる

法話が聴いてもらいやすい

坊守若坊守等に手当を支給することで責任感が開発されるよう

法務収入が増える場合がある

別冊 ふんだりけ 分陀利華



南無阿弥陀仏のお葬式

お寺葬パンフレット

平成29年6月

真宗大谷派紫雲山 恩樂寺

はじめに……………	2
① 第一報を恩楽寺にする ……	3
② お迎え ……	4
③ 安置・枕経執行 ……	5
④ 死亡届役所手続き ……	6
⑤ 葬儀内容の打合せ ……	6
⑥ 遺影写真の用意 ……	6
⑦ 納棺、本堂安置 ……	6
⑧ 通夜法要後のお斎 ……	7
⑨ 葬儀式執行 ……	8
⑩ お別れ・出棺 ……	8
⑪ 火葬式執行 ……	8
⑫ お斎 ……	8
⑬ 還骨・初七日 ……	9
⑭ お骨と中陰法要 ……	9
⑮ 満中陰・年忌 ……	9
お布施について……………	10
あとがき……………	11

はじめに

私たち一切衆生（あらゆる生命）を、必ず浄土に往生成仏させるという途方もない無差別究極の願いを、阿弥陀如来の本願といい、それが私たちに届いてはたらい

ている証を南無阿弥陀仏と申します。つまり、「どのようなあなたであっても、あなたは尊い、必ず救う」という如来本願に身をまかせ、確かな智慧と慈悲の中を共に生き、共に浄土に参ろうという親鸞聖人のみ教えを、南無阿弥陀仏と申します。

有難いことに、この身は阿弥陀如来より願われたいのちであります。娑婆の縁尽き煩悩執着を離れた時、即座に如来の願いを正しく頂戴し、成仏するのであります。よって、お葬式は人生の中で最も厳粛な儀式なのです。浄土真宗の葬儀は、亡き人に別れを告げるという単なる葬送儀礼ではなく、故人を偲んで参集した者みな共に、本願念仏の導きに遇う大切なご縁であります。したがって、華美になることなく、また見栄や外聞にとられることなく、お浄土へ還られ成仏された大切な亡き人を偲びながら、人生における生死苦難の問題にしっかり目を向けつつ、浄土真宗にふさわしき葬儀を執り行うことが、願いを託された者の勤めであります。

お寺葬とは？

恩楽寺で取り組んでいます「お寺葬」とは、お寺の本堂を会場にして、葬儀費用をおさえつつ、阿弥陀如来のみもとにてお葬式を執行する取り組みであります。今この「お寺葬」の取り組みは全国で宗派を問わず急速に広まりつつあります。

お寺葬では、お寺の本堂にて、もともとの祭壇や設備、備品を利用するので、葬儀社の会館や控室、祭壇・諸々の備品などの手配が必要最小限で済み、とても安価にお葬式ができます。恩楽寺の「お寺葬」を現在手伝っていただいている葬儀社は様々ですが、いずれも葬儀費用は19～42万円でした（お布施は別です）。

各社の直葬プランや大阪市規格葬儀を利用し、そこで直接火葬場へ向かうのではなく、お寺の方で通夜葬儀式を執行します。日程にも余裕ができ、利用された方は葬儀社も含めてみなとても高い満足度を示してくださっています。ただし、喪主に葬儀に関する知識がないと要不要の判断が難しいので、これまでの「お寺葬」は葬儀社との打合せに私が同席しております。

お寺葬に限らず、これからお葬式を検討されている方は、お力になれることがたくさんありますので、ぜひ事前にご相談・お問い合わせください。またもしもの時は慌てず第一報を必ず恩楽寺にください。

① 第一報を恩楽寺にする

喪主

いざ臨終を迎えた時、**必ず一番最初に恩楽寺に連絡をください**。深夜でも何時でも問題ありませんので、慌てずにご連絡ください。先に葬儀社に連絡した場合、業者によってはお寺葬に対応できない場合があるので、希望の形でお葬式ができなくなってしまいます。

ほとんどの病院、施設が葬儀社と提携し仲介料が発生しています。家族を亡くして気が動転している時に勧められるとついお任せしてしまいます。中には足下をみたり、悲嘆につけ込む悪徳の業者もあったりするので、気をつけないといけません。

☆ 余談 ☆

お坊さんと葬儀社のカンケイ

葬儀社やインターネット仏事仲介業者に、仲介料を払ってお葬式や法事を斡旋してもらっている僧侶が、宗派問わず増えています。契約のかたちは地域や業者によって様々ですが、お布施の7割～3割という形の仲介料が入るので、葬儀社や仲介業者はぜひとも契約している僧侶を呼びたいと考えています。

熱心なお坊さんに当たればいいのですが、業者に依存する僧侶の中には、広報や布教といった活動をする気がなかったり、できない状況にある者もいます。お寺に属さず葬儀専門の者もいるし、葬儀社に就職する者もいます。そういった葬式坊主・マンション坊主のほとんどが、遺族に寄り添うこともできず、本来の使命である布教伝道が制限されている場合があります。他にも僧侶に布教やお寺への勧誘を禁止している業者もあります。教えない儀式に何の意味があるのでしょうか。

各宗派の本山や宗務所は、そういった事態を取り締まり改善する手段がないのが現状です。大変憂慮すべき悲しい事態であります。

② お迎え

喪主

葬儀社

葬儀社の手配で、寝台車でご遺体をお迎えし、安置場所に搬送します。費用はおよそ10000円～20000円ほどです。距離に応じて変わります。時間帯によっては深夜料金が発生します。

☆ 余談 ☆

しん だい しゃ れいきゅうしゃ 寝台車と霊柩車のチガイ

「寝台車」と「霊柩車」は全く違います。ご遺体を運搬するという目的は同じですが、寝台車は内装・外装されておらず、ストレッチャー形式の遺体運搬車両です。霊柩車は、ご遺体を丁寧に運送、お見送りすることを目的に外装・内装が施されています。よって臨終場所から式場へ運送するときは寝台車、式場から火葬場へ出棺するときは霊柩車を使うことが一般的です。

霊柩車には等級があり、最近あまり見かけませんが宮形霊柩車、洋型外国製高級霊柩車、国産霊柩車など様々で、だいたい15000円～数十万円になります。車両にこだわらない方は、寝台車で火葬場へ出棺することもあります。一番利用されているのは25000円前後の霊柩車です。



↑ 寝台車



↑ 国産の一般的な霊柩車



↑ 棺が安置できるように内装されています

③ 安置・枕経執行

喪主

葬儀社

お寺

葬儀社の担当者が恩楽寺の仏間（お座敷）にて、故人の尊厳と衛生面に配慮して、両手を組んだり、目を閉じたりなど施し、ドライアイスの処置をして布団にご安置します。また必要があれば湯灌^{ゆかん}の儀を行います。

次にお寺とご遺族で枕経を執行します。短い法要ですが、故人が亡くなり浄土往生されたことをみんなで確認する大切な儀式です。

恩楽寺でご安置されれば、夜間の訪問客や、不断燃香など対応いたしますのでご安心いただけます。また布団にてご安置せず、そのまま納棺することもできます。

留意点

すでに法事や法要があったら……

恩楽寺にてすでに葬儀や法事、法要が予定されている場合は、大変恐縮ですが、お葬式の日程をずらしていただいております。

その間はお寺の仏間（お座敷）、あるいは本堂内陣余間^{よま}、あるいは納骨堂にて、ご遺体をお預かりします。

まためったにありませんが、お座敷も余間すべて使えない場合は、ご遺体を安置する場所を他に考えないといけません。

その場合のご遺体の搬送先は、①自宅、②葬儀社にあずかってもらう、③遺体搬送業者（寝台車）にあずかってもらう、④遺体ホテルを利用する、のいずれかになります。

いずれも寝台車搬送料金が一行程、また場合によってお預かり料金やドライアイスの追加料金が発生します。お寺で法要が重なることはまれですがもしもの時はご容赦願います。

④ 死亡届役所手続き

喪主

葬儀社

葬儀社と共に死亡届を作成し、役所手続きを代行してもらいます。

⑤ 葬儀内容打合せ

喪主

葬儀社

お寺

お葬式の日程・形態を遺族、葬儀社、お寺の三者で相談して決めます。基本的に副住職（釋大信）が打合せに参加させていただいております。ご遺族の希望を取り入れ、会葬者に最適なお葬式となるよう相談します。

⑥ 遺影写真の用意

喪主

故人のありし日のお姿や人柄がよくうかがえる写真を選びましょう。引き伸ばしは葬儀者に任せるか、近隣の写真店にても引き伸ばしができます。

⑦ 納棺・本堂安置

喪主

葬儀社

お寺

故人に旅支度をさせ、思い出の品と共に棺に納め、本堂内陣にご安置します。

お寺のお内陣と祭壇^{のじよく}（野卓）を使用しますので、祭壇設置費用が発生しません。



また、お花をお供えします。お花は別途費用が発生しますが、出棺時のお別れの時に故人へたむけるためにも使いますので、予算に余裕があれば惜しまず葬儀者に発注しましょう。

⑧ 通夜法要後のお斎^{とき}

喪主

お寺

本堂で通夜法要を執行します。

法要後、座敷でお斎のお食事をします。これを夜とぎともいいます。

食事については、自身で手配すると負担がとても少なくすみます。いずれの業者も前日に予約注文しておくか、当日の通夜勤行開式前に出前を注文しておく方法もあります。業者に心当たりがない場合は、恩楽寺にゆかりのある業者をご紹介します。

お風呂については、最寄りの銭湯をご案内しております。就寝については、3組までお布団がございます。他にも葬儀社に手配すればレンタルすることもできます。最寄りのビジネスホテルもご案内しております。

座敷（お斎会場）



- ・親族控え室、食事場所に利用できます
- ・お斎は約25名まで着席できます
- ・本堂も食事会場として利用できます
- ・机、椅子をご用意できます
- ・テレビをご用意できます
- ・冷蔵庫も飲み物を冷やすなど利用できます

☆ 余談 ☆

こんな方法も……

法要が終わってからの食事については、これまで様々なかたちがありましたが、基本的に自身で用意・手配される方が多いです。子どもが沢山参列しているのでピザやお寿司を頼んだお家や、近くのお店で食事されたり、お寺でお斎をせずに帰宅される方もあります。中にはお斎の場に導師をお招きいただいて、もっと仏法が聞きたい、お坊さんに話を聞いて欲しい、というお家もありました。

お寺で一泊しないという場合も、恩楽寺一同が本堂についておりますのでご安心ください。

⑨ 葬儀式執行

喪主

お寺

本堂にて葬儀式を執行します。お寺葬では基本的に司会者などを葬儀社に手配していませんので、あらかじめ焼香の順番を決めておく必要があります。

⑩ お別れ・出棺

喪主

葬儀社

お寺

儀式が終わると葬儀社が出棺の準備をします。そして棺をあけてお顔の見納め、出棺します。火葬場までの移動手段については、基本的に自家用車をおすすめしています。自家用車が用意できなかったり、人数がとても多い場合は葬儀社にタクシーやマイクロバスを手配します。

ポイント

火葬場への移動手段

出棺直前になって火葬場へ行く人数が増えることがあります。3人までであれば恩楽寺の車に乗って頂けますが、それ以上になると当日にマイクロバスは手配できませんので、タクシーを手配する必要があります。またタクシーもすぐには来ないので、葬儀式が始まる前に火葬場まで行く人数を確認して予約しておく必要があります。

⑪ 火葬式執行

喪主

葬儀社

お寺

火葬場にて最後のお別れをして、火葬いたします。

⑫ お斎

喪主

火葬が終わるまで約二時間あるので、お食事をされる方が多いのです。

ポイント

待ち時間をどう過ごすか

一同が会している貴重な機会なので、これまでお寺葬では自分でお食事を手配されている方が多いです。必ずお店で食事をしないとイケないわけではないので、自宅やお寺に戻って会食したり、中には火葬場の待合室で待機されたり、一時解散したりする方もありました。前日までに火葬場の近くのお店などを予約しておくとお効率が良いでしょう。

⑬ 還骨・初七日

喪主

お寺

所定の時刻に火葬場に集合し、お骨上げをします。その後本堂あるいは自宅にもどり、還骨・初七日法要を執行します。

⑭ お骨と中陰法要

喪主

お寺

満中陰までの間、ご自宅の仏間にお骨と白木位牌を飾り置きするための中陰壇を設置し、中陰法要を勤めます。葬儀社に中陰壇一式を手配するか、またはお家にあるもので祭壇を用意することになります。その場合はお骨と白木位牌をちゃんと飾り置きできるようお手伝いいたします。

またご自宅にご本尊やお内仏がなかったり、中陰壇が設置できない場合は、満中陰まで恩楽寺の本堂にてお骨と白木位牌をお預かりすることもできます。

⑮ 満中陰・年忌

喪主

お寺

満中陰法要や百ヶ日法要、年忌法要を勤めましょう。場所は自宅、本堂、納骨堂、どちらでも承ります。

番外編 1 自宅でお葬式

そもそも昔は自宅でお葬式をする方が一般的でありました。よって恩楽寺の「お寺葬」形式で、自宅でお葬式をしたいという場合も全力でサポートさせていただきます。お寺側の自宅葬儀の経験が少ないので、どのような形になるか未知数ではありますが執行は可能です。また節約できる項目は増えると予想できますので、お寺葬よりもさらに負担を少なくできる可能性があります。

番外編 2 お布施について

布施とは、古代インド語でダーナといい、見返りを求めずに慈悲の心をもって施す「喜捨」を意味した修行のことをいいます。そして布施は次の3種に分かれます。

①法施……儀式法要の執行、法話など教化伝道を通じて仏の教えを施すこと

②財施……お寺や仏法の護持相続のために金品衣食などを施すこと

③無畏施……ただ寄り添い、対象の畏れに安心を施すこと

お葬式や法事、法話などは①法施。お寺に寄進するお金などは②財施。そして僧侶が普段から心掛けてるのが③無畏施です。

これらは喜捨といい、見返りを求めず喜んで捨てるという慈悲の行い（修行）です。ですから法施や無畏施への対価として財施するものではありません。よって請われれば無報酬で儀式法要を執行いたしますし、財施の多い少ないで法要の内容は変わりません。

私たち現代人は、「品物やサービスを等価で交換したい」という経済感覚があり、物事を自分の価値観で計っています。お布施に関して、「いくらお包みしたらよいのですか」という質問も、この感覚と同じです。

そして「その価値観と感覚を疑え、それが大問題なんだ」と仏教は説いてきました。

その正体は、もの、いのち、現象、あらゆる事を「どれくらい」かはかり、自分勝手な直打ちを決めつけて、より優れた方を欲する人間の煩悩^{ぼんのう}であります。仏さまは「その煩悩に従い続けるのは、本当にかしこい生き方か？」とはるか昔から問うておいでなのです。半世紀以上も前のイギリスの社会学者マイケル・ヤングという方は、そんな価値観にとらわれた優性主義を批判し、それを促進する社会構造と国家体制に「それでは本当の幸せに成れない」と警鐘を鳴らしました。より価値のあるものが欲しい、より優秀でいたいという煩悩にとらわれたままでは、やがてやってくるのは絶望と挫折しかないからです。

わが身が老いて、病気になって、生きていくのに支援がいる、自分ひとりでは何もできないと嘆いたり、あるいは大きな失敗などで色々失って絶望し、「私は価値を失った」と苦悩することになります。

苦悩の根源である煩悩にどうアプローチするか、それが仏教の基本的姿勢です。わが身照らすみ仏の教えに会い、苦難の人生をどう生き抜いていくか、その尊い教えに遇い得た感動の結晶がお寺やお内仏です。「本当の幸せへ導くこの教えが大事だったんだ、どうか子孫代々伝わってくれ」というご先祖の思いが聞法道場のお寺を支えてきたのです。お寺は長い歴史の中そういう思いと願いで支えられてきた道場です。その護持相続を願うのが財施、つまり喜んで捨てるという皆さまから頂戴している尊いお布施であります。

ですから、お布施は、「教えが護られているお寺が存続し、仏法が子孫代々まで届きますように」という自覚した気持ちでしていただ

くものなのです。精一杯のお気持ちで何にも問題ありません。

「精一杯のお気持ちで結構」なのですが、それでも相場というものが知りたいという方には、前述のことをご理解いただいた上で「布施目安」をこっそりご案内しております。

知り得る方法がないため本当に困っているかたが多いので、見るに見かねてということです。

お知りになりたい方は私までお尋ねください。ご案内するのは「布施目安」でありますから、あくまで恩楽寺や近隣の真宗寺院を平均した目安ですので、それより多かろうが少なかりょうが、儀式に差異はありません。

～ あ と が き ～ 死の苦悩に直面して

釈尊が諸行無常を説かれた通り、私たちが有情が全て生老病死であることは真理であります。しかし無明業障である私たち凡夫は、常日頃は煩惱のままに、その事実を意識せず遠ざけることに執着して思考・生活しています。そして自己の真実に現前と直面した時、煩惱に酔い遠ざけた分、苦悩します。

その苦悩を仏法では「機」といって大切に受け止めます。それは苦悩や都合の悪いことを遠ざけ、思いを思い通りにしていきたいという煩惱に執着していたために、さらに苦悩する自己の事実が照らし出された機会のことをいいます。

もう自分の力ではどうしようもない、だれか助けて下さい！ と自力がかなわないことを悟ったとき、阿弥陀如来の本願がはるか昔から私たちのいのちを支えていて、私たちの中にあったことに本当に気がつける、最大の機縁が苦悩なのであります。

自分あるいは大切な人がいよいよ死を迎える、宣告されることは本当に苦しいことです。

その悲嘆の中におられる方々へのケアの法務活動をしておりますが、煩惱若輩の私には、ただ寄り添って傾聴し、阿弥陀如来のおはたらきをお伝えすることしかできません。自身が本願を信じ念仏する身になって、死で終わらない物語を歩み始めるしかないのです。

如来の本願にすべておまかせしようと思いつつ時、苦悩が喜びに変わります。すなわち悪を転じて徳とする智慧を南無阿弥陀仏と申します。

死で終わらないいのちの物語

次に死で終わらないいのちの物語（南無阿弥陀仏）を生きた先達を紹介させていただきます。

親鸞聖人 『正信偈』より

往還回向由他力
正定之因唯信心
往・還の回向は他力に由る。
正定の因はただ信心なり。

阿弥陀如来のおはたらき（他力）によって、我ら凡夫は娑婆の縁尽きれば極楽浄土に往生する（往相回向）。

往生すればあらゆる執着、あらゆる煩惱から解脱して即時に成仏し、有縁（娑婆を生きる同朋）に本願の一道を知らせるのである（還相回向）。

浄土往生し成仏することが確定しているのは、ただ「信心」による。その「信心」は、自力の信心ではなく、如来より賜りたる他力の信心である。

越中塩村の幼女

『妙好人伝（大系真宗史料8）』より

越中国の塩村・大永寺に七歳になる幼女がいた。疱瘡にかかり、静養のために、三里ほど北にある富山の寺へ父母とともに移った。昼夜通して看病につくしたが、次第に病は重くなるばかりであった。（父母は）幼女の浄土往生への覚悟はどうなのだろうと思いながらも、なかなかそういう話をできずに日が経っていった。

しかし、もはや快復することはできない病状となり、母は機を見て幼女に「おまえはもう死ぬであろう、今死んだらどこへ行くのか」と尋ねた。

幼女は目を開いて、母の顔をながめながら、「私は死ぬば極楽へまいります。阿弥陀さまが御馳走をされて待ちかねていらっしゃる」と言って念仏を称えた。母はまた「その極楽へはどのようにしてゆくのか」と尋ねると、幼女は「阿弥陀さまに背負われてゆきます」と答えた。

母はたいそう喜び、これを寺の住職に話した。住職も喜んで幼女の枕もとにゆき、もう一度同じことを尋ねようとした。

母は「このように苦しっておりますので、やめてください」と、やめさせようとした。しかし、住職は聞き入れず、母と同じ質問をした。すると答えはまた同じであった。

さて、さらに住職は「なぜ阿弥陀さまが背負ってゆくのか」と尋ねると、幼女は「私は、わけは存じませんが、阿弥陀さまは私が可愛くて可愛くてならないそうです」と答えたので、住職も涙を流して、「仏の不思議なご念力が幼女の心の中まで入りこんで、このように領解させてくださった」と言って喜んだ。この話は、そのころ世間に伝えられて、知らぬものは

なかった。

「臨終やからと騒ぐことはない」高田俊彦

『完本 うらやましい死に方』
五木寛之編より

平成8年3月16日、母やがリウマチによる多臓器不全のため亡くなった。享年八十一。

数年前から、関節の変形で歩行ができなくなって入院していた。週の半ばと週末には、母を見に行くことが習慣になっていた。（中略）「また来たか、もう来るなと言うて置いたがに。おらの年取った妹たちも来たし、お前ら子供も、また来てくれた。何度も危篤や、それ臨終やと、県境を越えて氷見の病院まで駆け付けてくれて、生きている者の方が、おらよりも大変やなあ」

「前から話して置いたとおり、臨終やからと騒ぐことはないぞ。平生業成やぞ。お文さまにあるやろ。おらは、もうお念仏のお蔭で正定聚や。だからして、臨終に良いも悪いもない。ひとの臨終をとやかく言うもんでないぞ。

おらの臨終は阿弥陀さまにまかせたがや。さあ早よう家へ帰って休んでくれ、運転には氣をつけてな」

——「なむあみだ、なむあみだ……」母はこう言い終えると念仏を唱えながら、目を閉じた。（中略）

「俊、お前、またおったが。あ、この前、会いたい者がおったら呼ぼうかと言うてくれたが、それはいらぬぞ。会う縁にある者にはもう会った。俱会一処と言うぞ。会う縁にある者にはまた会える。ほんとうに誰も呼ばないでくれ。どうでもよいがやが葬式の事や。葬式は供養ではないぞ。それは娑婆の習いやから、見栄を

張らんでな、つつましいがにな」
「これは大事なことやが、お念仏や。お念仏は人それぞれが戴くもの、無理せんでいい。お前もご縁はいただいているのやからな。お念仏がひとりでに湧いてきて、それに押されて親さまの懷にとぼしこむ（注：金沢弁でつきすすむの意）、そんな心になるものや。おらは、そうして阿弥陀さまにすっかりまかせてしもうたがや」

母の言に従い十四日の深夜に病院を出た。十六日の朝、病院にいた妹から、六時三十九分に往ったとの電話があった。

母の念仏を耳にしながら、所用で妹が枕辺を離れた間のことであったと。

母の臨終には誰も立会っていない。

死んだら終いではない

私たちは等しくみな阿弥陀さまに願われた尊いのちであります。必ず浄土に往生させていただき仏とならせていただくのです。そのはたらきを南無阿弥陀仏と申します。

南無阿弥陀仏という言葉は、阿弥陀仏に帰依をするという意味です。帰依をするとは、全てを投げ出して信じる、任せる。いのちを預けるという事です。それに対して阿弥陀仏は「ひとりも漏らさず救う」と誓っておられます。

信は願より生ずれば

念仏成仏自然なり

自然はすなわち報土なり

証大涅槃うたがわず

信心は阿弥陀如来の本願によって生ずるもので、念仏成仏することは自然他力のはたらきである。自然に他力によって往生した世界は如来の建立した浄土である。往生すれば、大涅槃の証を得ることを疑わない。『高僧和讃』親鸞聖人

阿弥陀如来より願われているこの身は、特になんの修行も努力も必要なく、自然に生きてお念仏一つで往生させていただけるのであります。阿弥陀如来にこの身をお任せして、大慈悲に報謝して、念仏と共に誠心誠意、世の生業につくして参りましょう。

よって私たちは死んだらお終いではありません。親鸞聖人が、他力によって浄土に往生すれば即座に成仏し、仏として有縁にはたらくと教えられるように、私もまた、そういういのちを生きているといただいております。

だからお葬式は終わりの儀式ではありません。亡き人そして私たちが新たな出遇いとお発を確認する大切な儀式です。よってお葬式や満中陰が終わったから、仏事が終わったということはありません。継続して仏事を営み、私たちが仏法に遇い、仏さまの尊い導きを、人生を歩んでいく基礎としなければ、本当の意味で亡き人の供養になりません。

間に合わない自己に出遇ったら

私たちは生老病死などの苦悩・困難に直面したとき、自分の力や知識でなんとかしようと思って努力します。しかし人間の力（自力）では限界があり、険しい道であります。

対して、自力ではどんなにがんばっても苦悩や困難を克服できないので、阿弥陀如来に救ってもらおう（他力）、という易しい道があります。それを南無阿弥陀仏と申します。

何の努力もせずに、対価も払わずに他力にすごることはあつかましいことでしょうか。もっとあつかましいのは自力に溺れた私たちがなのかもしれません。

そもそも私たちに本当にいのちを助けきる

力と知恵は備わっているのでしょうか。どれほど医療や科学が発達し、病気が治り長生きできるようになったとしても、それは本当にいのちが救われたことになるのでしょうか。

「あの治療法もダメ、この薬も効かない、手術してもダメ、あれも間に合わない、これも間に合わない。自力ではもうどうしようもない！」と、自力が完全に破れて、精根尽き果てた極限状態になった私たちは、一体どうするのでしょうか。「助けてください！」という純粋で深い願いが身を貫くのであります。その願いの声を「南無阿弥陀仏」と申します。

すべては南無阿弥陀仏に成就する

私はお坊さんのお役をいただいている身でありますので、沢山の往生を目の前にしてきました。小さい子どもが亡くなったり、事故などで若く突然亡くなったりというような、胸をえぐり取られるような苦悩、悲しみにも遇いました。生にしがみついてもがき苦しんで納得せぬまま逝った方、また見守られて年相応に緩やかに死んでいく方、先に紹介したように念仏を唱えながら往生された方、日ごろから「阿弥陀さんにお任せや」と言いながらいつのまにか臨終されていた方、いろいろです。

いずれのいのちも、どれだけ手を尽くしても、どれだけ祈っても、人間の力では死という問題をどうすることもできません。どれだけ思っても、私たちの思いや行いでは不十分でありません。だから、念仏だけが徹底した大慈悲心なんだと親鸞聖人が示してくださっています。

時代を超えてたくさんの方がその導きに遇って、「人生の中でこの教えが一番大事だっ

たんだ、どうか子孫代々伝わってくれ」と仏教を支えてきたのです。せっかく尊いバトンが渡されてきたのに、本当の意味で私はそのために尽くすことができません。そうあるべきだと思うのに、全うできません。すぐに色や形にとらわれ効率や合理性を意識して、優劣にこだわり苦悩します。

何一つ完璧に徹底できない私であります。そのようなどうしようのない者こそ阿弥陀様のお目当てで、必ず救うと誓っておられます。

苦しさも悲しみも全て阿弥陀如来にお任せして称えましょう。すべては南無阿弥陀仏に成就します。

恩楽寺には春秋の彼岸、お盆、報恩講、永代経など各種法要が毎年必ず勤修されています。参詣される方々のほとんどが大切な人を亡くし、成仏された亡き人に導かれて、仏さまの教えに遇うために参られています。

お寺の法要や法事で仏法に遇い、無明業障のわが身を照らされて、生きる智慧としてゆきましょう。

毎朝お内仏の前に座って、正信偈を読んで、生活全体が如来の智慧と慈悲の中にあることをよろこびましょう。

毎月のご命日には、聖人のみ教えを確認するために、あるいは苦悩を打ち明けるためにお坊さんと呼んで、月忌を勤めましょう。仏縁をくださる亡き人に感謝し、有縁に呼びかけ年忌法要を勤めて、念仏の輪をひろげましょう。

このこと一つとお念仏をいただいて、お念仏をとなえつつ、精神誠意世の生業に勤しんで生きて参りましょう。

平成 29 年 1 月 釋大信(乙部大信)



亡き人を案じる私が
亡き人から案じられていた

真宗大谷派 紫雲山 恩樂寺

〒546-0031 大阪市東住吉区田辺 1-14-18

TEL/FAX 06-6621-2856

メールアドレス onrakuji7676@gmail.com

H P : <https://www.onrakuji.com>



父

様

御住所

喪主

様

葬儀委員長

様

性別

男

満年齢

101

続柄

御精算先

様

宗派

真宗大谷派

寺院名

恩楽寺

(種)

TEL:06-6621-2856

葬儀日時

過去日時

施行場所(会館名)

恩楽寺

式場

恩楽寺

大阪市東住吉区田辺1丁目14-18

霊柩車

依頼先

種類

洋室

斎場

瓜破斎場

品名

数量

単価

金額

祭壇花K

親族一同K

親族一同

1

30,000

30,000

司会K

湯灌K

仏衣K

棺K

平棺 (M)

1

50,000

セット

棺布団K

棺布団

1

3,000

セット

写真K

盛物K

ドライアイスK

ドライ I

1

8,000

セット

枕飾りK

胴骨

1

5,000

セット

受付セットK

消臭関係K

①

A社：直葬プランをベースにお花一对、
参列親族のみ6人

小計②

30,000

車関係K

寝台料金 基本料金

1

12,230

12,230

車関係K

霊柩車

1

49,930

49,930

アシスタントK

設備関係K

小計③

62,160

品名

金額

小計④

小計⑤

小計⑥

葬儀コース

コース名 やすらぎ葬

口数 0.0口

区分

基本代金 ①

160,000

設 営 費

10,000

小 計 ⑦

10,000

合計 (①+②+③+④+⑤+⑥+⑦)

262,160

消費税等

20,972

請求総額 (A)

283,132

内 金

合計 (B)

支払総額 (A) + (B)

283,132

備 考

N0.837

会 員 証

使用口数 0 本

区分

種別

支部

加入者番号

契約番号

契約者氏名

満期額

既払回数/金額

残回数/金額

精算回数/金額

利用可能額

名変/移動

合計

0

0

0

移籍元

早期利用費

割増P

部分P

入会日

完納日

代理店

担当者

回収

0.0P

0.0P

フリガナ 亡() 様 性別 御住所 御精算先 TEL 宗派 要・不要

品名	数量	単価	金額
祭壇花	1	50000	50000
親族一同			
御膳花			
司会			
エンターテイン			
湯灌			
仏衣			
消臭関係			
送り巻			
棺	1	30000	30000
出布団	1	15000	15000
安置布団	1	18000	18000
ドライアイス	2	8000	16000
エンゼルセット			
遺影写真			
電照写真			
メモリアルコラージュ			
記録写真			
盛り物			
電装飾			
提灯			
枕飾り			
遺品供養袋			
後飾り			
骨壺	1	2500	2500
受付セット			
貸衣装			
貸布団			
追憶DVD			
小計③			99.000

寝台料金	1	15160	15160
中送り			
霊柩車	1	49930	49930
出棺バス			
骨上バス			
タクシー			
通夜・当日アシスタント			
通夜・当日セブタント			
駐車場誘導整備料			
光熱費			
式場使用料			
霊安室使用			
初七日法要			
小計④			65.090

寺院名 恩楽寺 葬儀日時 通夜 夜時 通日 去時 逝日 施行 N.O. 霊柩車 依頼先 斎場 施場所(会館名/施行部) 恩楽寺 東区DJD-14-18 358214

品名	金額
霊柩車	8000
寝台車	
見積担当	
営業担当	
精算担当	
飾り担当	桐山
出棺担当	桐山
料理部	
通夜スタッフ	
朝食スタッフ	
納棺担当	桐山
生花部	
当日スタッフ	
配膳スタッフ	
コース名	やみ生葬
口数	
区分	
会員コース代金①	160.000
祭壇ランクアップ代金②	
設営費	10.000
早期利用費	
小計⑥	
合計	326.090
消費税 8%	26.087
税込合計 (A)	352.177
既払金	
内金(No.)	
(B)	
支払総額 (A+B)	352.177

B社：直葬プランをベースにお花一对、霊柩車・寝台車が追加
参列親族のみ約20人ほど

2

後当日清算 (恩楽寺に2)

受付No: [REDACTED] 受付日 [REDACTED] (2 -) 発行日: [REDACTED] PAGE: 1

生 年 月 日

担当

$\neq 347,831 -$

施 行 内 容 確 認 書 詳 細 情

P. 1

喪 主 情 報				死去日時			
				納棺日時			
				通 夜 情 報			
				恩楽寺 〒 546-0031 大阪府大阪市東住吉区田辺 1-14-18 TEL 06-6621-2856 FAX			
故 人 情 報				葬 儀 情 報			
				恩楽寺 〒 546-0031 大阪府大阪市東住吉区田辺 1-14-18 TEL 06-6621-2856 FAX			
				会 社 情 報			
				〒 TEL FAX 故人の役職			
そ の 他 情 報				備 考			
〒 TEL FAX				畜 場		瓜破畜場	
				家 紋			
				本 寺		恩楽寺	
				宗 旨		真宗 大谷派	
				葬儀種類		規格	
供 花 ・ 揺 情 報				法要		仏式	
供花		受ける		初七日		平成29年1月22日	
揺		受けない		二七日		平成29年1月29日	
取りまとめ先		TEL FAX		三七日		平成29年2月5日	
種類		供花 一對 ¥32,400		四七日		平成29年2月12日	
		供花 一基 ¥16,200		五七日		平成29年2月19日	
		供花 一對 ¥21,600		六七日		平成29年2月26日	
		供花 一基 ¥10,800		七七日		平成29年3月5日	
				百ヶ日		平成29年4月25日	
				一周忌		平成30年1月17日	
				三回忌		平成31年1月17日	
議員通知		しない					
香典		受ける					
御紹介者		謝礼種類		紹介料金		担当者名	
① 恩楽寺		紹介御礼		¥10,000		応 対 可	
②				¥0		請求書発行 発行日	
③				¥0		領収書発行 発行日	
④				¥0		請求先 喪主 金 額 印字無	
⑤				¥0		領収書宛名	
柩車		霊柩車 (ボルボ)		帳票出力名			

項 目	数 量	単 価	金 額
祭壇基本料 規格 (桔梗)	1 式	185,700	185,700
ドライアイス綿花包装処置	3 回	8,000	24,000
【基本料金計			209,700
【基本料金消費税計			16,776
火葬料 市内	1 件	10,000	10,000
式事手伝い女子	1 人	16,200	16,200
霊柩車 (ボルボ)	1 台	26,570	26,570
寝台車 (病院～式場)	1 台	19,650	19,650
マイクロバス (出棺1台・骨上1台)	1	36,103	36,103
お料理 (仕上)	1 切	94,556	94,556
お飲み物 (仕上)	1 切	20,104	20,104
【おたてかえ料金計			223,183
供花 1 5 親族一同様)	1 基	16,200	16,200
【供花料金計			16,200
<<小計>>			465,859
供花 1 0	1 基	10,800	10,800
供花 1 5	1 基	16,200	16,200
供花 2 0	1 対	21,600	21,600
【その他料金計			48,600

4

D社：大阪市規格葬儀「桔梗プラン」
式事女子、お花、霊柩車・寝台車
マイクロバス、お料理などが追加
参列多数、親族だけで20人ほど

喪主	フリガナ		
	氏名		様 故人との続柄
故人	〒御住所	携帯	
	フリガナ		
人	氏名		様 喪主との続柄
	〒御住所		
会	生年月日	明治 大正 昭和 平成 年 月 日 享年 歳	
	フリガナ		
社	氏名		様 故人の役職
	〒御住所		
お通夜	死去日時		
	式場	和光殿（全館・第一・第二・第三）	
式場	〒御住所		
	式場	和光殿（全館・第一・第二・第三）	
葬儀	〒御住所		
	式場	和光殿（全館・第一・第二・第三）	
式場	〒御住所		
	式場	和光殿（全館・第一・第二・第三）	
斎場	小林・北・瓜破・鶴見・佃・（ ）斎場		ご家紋
本寺・宗旨		TEL - -	

この御見積書に関してご不明な点・ご質問等ございましたら
下記連絡先までお申し出下さい。

担当者	No.

項 目	量	単価	金 額
祭壇基本料金 (白木・青竹・フラワー・その他) ・40万・80万・100万・130万・160万 ・60万・90万・110万・150万・180万		桔梗	185 700
遺影お写真 (白黒・カラー・四つ切・半切・全紙・パネル)	枚		27 000
ドライアイス綿花包装処置	回	8,000	24 000
会葬礼状 (薄墨角丸70 角角60)	枚		0
お供え物 (メロン 50,000・リンゴ バイン 餅 落雁 18,000)	式		0
御褒棺 ・桐プリント 51,600 ・さざみ 64,000 ・2面彫刻 81,000 (その他)		(白木)	0
受付・休憩所設営	テント (イコ)・机 冷暖房 ()	式 20脚・300	6 000
仮設・屏風	式		
電飾門前 (縦型・横型)	台		
白木提灯台 (高張)	対	10,000	
外飾り	式		
マイク・音響・照明	式		
本骨袋 (集骨容器)	ヶ	1,000	
胴骨箱5寸 (集骨容器)	ヶ	3,000	
消耗必需品	式	30,000	
中陰飾り (2段)	式	25,000	
施行運営費 (納棺・式事)	式		
宅葬儀			
見格葬儀「桔梗」プラン			
	小 計		242 700
	消費税		8%
	計		262 116

実際の必要に数量により変動する金額

[illegible]

実費としてご負担いただく金額

項 目	数量	単価	金 額
火葬料金 (市内・市外) ※非課税	件		10,000
タクシー (ご出棺 台 お骨上げ 台)	0 式		0
マイクロバス (ご出棺 台 お骨上げ 台)	0 式		0
式事女子 市外16,000 (お通夜 人 ご葬儀 人)	0 人		0
仕上げ手伝い女子 市外16,000 (お通夜 人 ご葬儀 人)	0 人		0
ガードマン (交通整理) (お通夜 人 ご葬儀 人)	0 人		0
霊柩車 (车型 関 A B・洋型 南)	台		15,000
寝台車 (南・大)	~		0
寝台車 (南・大)	~		0
お通夜料理 (徳・三・和・丸・水)	209 杯 $(205) \times 25$		19,950
お仕上料理 (徳・三・和・丸・水)	209 杯 $1,211 \times 25$		
お飲み物 (徳・三・和・丸・水)	式 5割		
貸衣裳			
貸布団			
湯かんサービス	式	78,750	
	小 計		44,980

項 目	数量	単価	金	額
供花（会社名・親族一同） ・菊スタンド 21,000・洋花スタンド 31,500 ・洋花胡蝶蘭スタンド 42,000 ・洋花円筒または龍花 52,500	1 対		32	400
供花				
特特大櫛（会社名・親族一同）	対	52,500		
櫛				
盛り籠・廻り提灯				
小 計			32	400

① 基本料金	262.116
② 粗供養料金	32.400
③ おたてかえ金	44.980
④ 供花料金	32.400
合計金額 ①+②+③+④	391.896

ご確認の上ご署名下さい
お名前

最後に

- ◎お寺側が傾聴するようにすると良い
- ◎門徒、地域に向けて説明会を開催し、周知理解広報すると良い
- ◎寺報などで広報するとよい

最後に

恩楽寺での取り組み方を全てマネしていただきたいわけではない。

使えるところと使えないところがある。条件的にできるかできない場合もあり、寺院内の人間関係や地域のシキタリ・地元の強い葬儀社など、様々に反発して歪みや混乱を生じさせてまで取り組むべき方策ではない。

熱心に取り組んでもマイナスになる可能性は十分にある。特に地元の強い葬儀社とは慎重に歩み合わせるべきである。

私はそれらの問題と真っ向勝負し、寺院内人間関係、古い地元葬儀社との関係を悪化させた。そこまでしてやるべきだったのかと言われると、もっと摩擦少なく要領よく取り組めただろうと反省はあるが、それ以上に門徒が篤くなってくれた点において、そうだと言いたい。

次回について

- ◎お葬式や、法事の勤め方を考える会を開きたい
- ◎通夜法話大会を開いて、通夜法話を研鑽したい
- ◎臨床心理士の講師を呼んで、傾聴トレーニング会を開きたい

これからお寺葬を始めようとお考えの方で、
恩楽寺でお寺葬をしたことがある葬儀社を教えてください、
後ほど前に来てください